

県民アンケート(愛媛県の新しい未来を描くためのアンケート調査)について

1. 調査の目的

令和5年に策定予定の新総合計画について、県民参加型の計画とするとともに、目指すべき将来像を創造・共有・実現するため、個々の県民の意見を幅広く把握するため、アンケート調査を実施した。

2. 調査の実施概要

- (1) 調査対象者：愛媛県内に住む県民2,000人(18歳以上)
- (2) 調査方法：インターネットを活用したモニター調査
- (3) 実施期間：令和4年8月19日(金)～令和4年8月31日(水)
- (4) 調査対象数：居住地域別に下記のとおり、回答サンプルを取得

居住地域	男性					計
	18～29歳	30代	40代	50代	60～79歳	
松山地区	58	82	80	75	145	440
西条・新居浜・宇摩	24	40	41	35	80	220
今治	5	19	26	20	45	115
宇和島	5	10	15	22	48	100
八幡浜・大洲	5	16	20	32	47	120
男性・計	97	167	182	184	365	995
居住地域	女性					計
	18～29歳	30代	40代	50代	60～79歳	
松山地区	75	75	90	85	170	495
西条・新居浜・宇摩	25	35	56	53	61	230
今治	15	15	20	29	46	125
宇和島	5	10	19	17	14	65
八幡浜・大洲	10	19	22	26	13	90
女性・計	130	154	207	210	304	1,005
合計	227	321	389	394	669	2,000

3. 調査結果のまとめ

主な回答結果は、次のとおり。

- 今住んでいる地域の暮らしやすさ(問5)は、「どちらかといえば暮らしやすい」(59.5%)が最も多く、次いで「とても暮らしやすい」(25.7%)となっている。
- 今住んでいる地域の今後の居住意向(問6)は、「当面、今の所に住み続けたい」(73.6%)が最も多く、次いで「わからない」(9.8%)となっている。

- 今住んでいる地域に住み続けたい理由(問6-1)は、「地域に愛着があるから」(33.8%)が最も多く、次いで「自分らしく生活できると思うから」(25.4%)となっている。
- 県内の他地域や県外に移りたい理由(問6-2)は、「交通基盤の整備が不十分で、行き来しにくいから」(24.0%)が最も多く、次いで「他に住んでみたい地域があるから」(21.3%)となっている。
- 現在の生活の満足度(問7)は、「まあ満足している」(61.4%)が最も多く、次いで「満足している」(18.2%)となっている。
- 日頃の生活の中での悩みや不安(問8)は、「自分の健康」(49.0%)が最も多く、次いで「老後の生活設計」(46.5%)となっている。
- 隣近所の人との関わり方(問9)は、「あいさつをする程度」(62.3%)が最も多く、次いで「ほとんど付き合いがない」(20.8%)となっている。
- 過去1年間の地域社会活動(問10)は、「必要なもののみしている」(38.1%)が最も多く、次いで「したことがない」(37.5%)となっている。
- 過去1年間の文化芸術活動(問11)は、「したことがない」(56.7%)が最も多く、次いで「興味があるときのみしている」(25.2%)となっている。
- 愛媛県の魅力を高めるための地域資源の活用方法(問12)は、「地元産のおいしい食材や、魅力的な地産地消」(44.6%)が最も多く、次いで「豊かな自然環境・景観」(37.4%)、「多彩な観光資源(観光スポット・イベント)」(29.1%)となっている。
- 愛媛県に足りないもの(問13)は、「若者が活躍できる環境」(42.0%)が最も多く、次いで「鉄道やバスの交通環境」(41.2%)、「魅力ある企業」(35.2%)となっている。
- 愛媛県が優先して取り組むべき施策(問14)は、「雇用対策の推進」(8.2%)が最も多く、次いで「道路等の整備や公共交通機関の確保の交通ネットワークの整備」(7.7%)、「若者が移住し、活躍しやすいまちづくり」(6.4%)、「今ある農林水産業や工業の活性化」(6.3%)、「自然環境・景観の保全」「省エネ・再生可能エネルギー脱炭素社会の実現に向けた支援」(同率で5.5%)となっている。
- 今後の愛媛県に期待すること(問15)は、「医療や福祉サービスが充実し、安心して暮らせる」(33.5%)が最も多く、次いで「地元の産業、企業が活発に活動しており、魅力のある雇用の場が形成されている」(32.0%)、「道路等の交通基盤の整備が進むとともに、公共交通機関が確保され、どこにでも気軽に行き来ができる」(29.0%)、「買い物日常生活に不便が無く、暮らしやすい」(23.1%)となっている。
- 愛媛県の将来に関する意見(問16)は、「公共交通の改善」に関する意見が最も多く、次いで「地域経済の持続的な発展」「子育て支援」「過疎地域の改善」「地域特性を活用」などの意見が寄せられた。

中学校生対象アンケート（未来の愛媛県の姿に対する希望調査） について

1 目的

2040年の「本県の目指すべき姿」を検討するにあたり、2040年頃の社会の担い手となる中学生の意見を幅広く聴取するため、アンケート調査を実施する。

2 調査の実施概要

- (1) 調査対象者 県内公立中学校に通う中学2年生
- (2) 調査方法 インターネットを活用
※県から各市町教育委員会を通じて依頼
- (3) 実施期間 7月上旬～7月19日
- (4) 回答者数 性別・居住地別に、以下のとおり

	男性	女性	回答しない	総計
2 今治市	452	382	27	861
5 新居浜市	428	407	30	865
6 西条市	339	298	13	650
9 四国中央市	229	247	12	488
12 上島町	7	8	0	15
1 松山市	1081	1104	61	2246
8 伊予市	157	121	8	286
11 東温市	113	105	3	221
13 久万高原町	13	16	3	32
14 松前町	112	120	9	241
15 砥部町	68	63	1	132
3 宇和島市	172	155	5	332
4 八幡浜市	1	1	1	3
7 大洲市	158	127	8	293
10 西予市	115	119	7	241
16 内子町	55	51	1	107
17 伊方町	10	1	0	11
18 松野町	6	8	1	15
19 鬼北町	25	27	3	55
20 愛南町	67	48	2	117
21 県外	5	1	3	9
総計	3613	3409	198	7220

3 調査結果のまとめ

主な回答結果は、次のとおり。

- 中学校卒業後の進路(希望)(問3)は、「高校進学し卒業後さらに進学」(57.0%)が最も多く、次いで「まだわからない」(22.5%)、「高校進学し卒業後に就職」(19.6%)となっている。
- 30歳になった頃(2040年頃)あなたの職業は何だと思うか(問4)は、「まだわからない」(52.9%)が最も多く、次いで「正社員」(33.5%)となっている。

- 30歳になった頃(2040年頃)あなたはどこに住んでいると思うか(問5)は、「まだわからない」(39.8%)が最も多く、次いで「愛媛県外に住んでいる」(27.8%)、「今住んでいる市町に住んでいる」(17.6%)、「今住んでいる市町ではないが、愛媛県内に住んでいる」(14.4%)となっている。
- 今住んでいる市町・愛媛県内に住んでいる理由(問6)は、「両親や祖父母の近くで生活したいから」(53.5%)が最も多く、次いで「今いる友人や知人との関係が大切だから」(38.3%)、「今の生活環境に満足している・不便を感じておらず満足しているから」(37.7%)となっている。
- 愛媛県外に住みたい理由(問7)は、「他に住んでみたい地域があるから」(52.5%)が最も多く、次いで「都会や海外に興味があるから」(51.1%)となっている。
- 愛媛県(今あなたの住んでいる市町)は、総合的に見て住みやすいまちだと思うか(問8)は、「住みやすい」(47.7%)が最も多く、次いで「とても住みやすい」(32.5%)となっている。
- 愛媛県(今あなたの住んでいる市町)について、あったらよいと思うもの、よりよくなってほしいと思うものは何か(問9)は、「公園やスポーツ施設などの公共施設」(41.3%)が最も多く、次いで「誰もが来たいと思う観光地づくり・PR」(34.5%)、「地震や水害など災害への対策」(27.0%)、「商業施設やイベント等の地域のにぎわい」(26.5%)となっている。
- 愛媛県(今あなたの住んでいる市町)の魅力は何だと思うか(問10)は、「お祭りなどの伝統・歴史文化」(55.1%)が最も多く、次いで「おいしい地元の食材」(52.3%)、「豊かな自然環境・景観」(38.3%)となっている。
- 30歳になった頃(2040年頃)の愛媛県(あなたが住んでいる市町)について、どのような姿であってほしいと思うか。(問11)は、「豊かな自然環境・景観が守られている」(52.9%)が最も多く、次いで「交通が便利で、どこにでも気軽に出かけられる」(29.1%)、「年齢や性別、障がいの有無なども関係なく「自分らしさ」が尊重される」(23.8%)、「防災・防犯体制が整っており、安心して暮らせる」(23.1%)、「子どもたちが伸び伸びと育つことができる」(22.3%)となっている。

高校生対象アンケート（進路や将来像に関するアンケート）について

1 目的

2040年の「本県の目指すべき姿」を検討するにあたり、2040年頃の社会の担い手となる高校生の意見を幅広く聴取するため、アンケート調査を実施する。

2 調査の実施概要

- (1) 調査対象者 県内公立高校に通う高校2年生
- (2) 調査方法 株式会社いよぎん地域経済研究センターが実施するアンケートに一部県の調査項目を追加して実施
- (3) 実施期間 11月上旬～11月18日
- (4) 回答者数 性別・居住地別に、以下のとおり

	男性	女性	回答しない	総計
今治市	274	269	17	560
新居浜市	226	266	13	505
西条市	296	305	12	613
四国中央市	213	221	17	451
上島町	4	12	1	17
松山市	807	814	55	1,676
伊予市	81	73	1	155
東温市	57	85	5	147
久万高原町	23	14	4	41
松前町	68	56	3	127
砥部町	44	46	3	93
宇和島市	110	148	7	265
八幡浜市	57	50	3	110
大洲市	122	107	9	238
西予市	68	105	2	175
内子町	50	25	6	81
伊方町	21	18	1	40
松野町	11	13	1	25
鬼北町	22	25	3	50
愛南町	20	49	3	72
愛媛県外	7	3	5	15
総計	2,581	2,704	171	5,456

3 調査結果のまとめ

主な回答結果は、次のとおり。

- 愛媛にどの程度愛着を持っているか(問3)は、「やや愛着を感じる(52.7%)が最も多く、次いで「とても愛着を感じる」(33.0%)となっている。
- 愛媛は住みやすいと思うか(問5)は、「住みやすい」(53.3%)が最も多く、次いで「どちらかといえば住みやすい」(38.6%)となっている。

- 愛媛に将来も住みたいと思うか(問6)は、「一度県外へ出て、愛媛に戻って住みたい」(39.1%)が最も多く、次いで「わからない」(32.4%)となっている。
- 愛媛に将来も住みたい理由(問7)は、「愛媛での生活に慣れている」(71.4%)が最も多く、次いで「都会で暮らすのは大変そう」(37.5%)となっている。
- 愛媛に将来住みたくない理由(問8)は、「都会の暮らしに興味がある」(54.2%)が最も多く、次いで「愛媛には魅力のあるイベントや遊ぶ場などが少ない」(43.9%)となっている。
- 愛媛が魅力的だと感じるどころ(問9)は、「自然が豊か」(60.9%)が最も多く、次いで「食べ物がおいしい」(44.5%)となっている。
- 愛媛に足りないと感じるところ(問10)は、「商業・ショッピング施設」(54.9%)が最も多く、次いで「魅力ある観光地」(37.6%)、「魅力ある企業」(31.7%)、「魅力ある大学など高等教育機関」(31.5%)、「電車やバス等公共交通機関」(31.2%)となっている。
- 高校卒業後の進路(問11)は、「大学へ進学」(57.7%)が最も多く、次いで「就職」(17.2%)、「専門学校等へ進学」(16.6%)となっている。
- 進学先や志望校を決める際に重視する事(問12)は、「学びたい学部・学科がある」80.4%が最も多く、次いで「目指す資格や免許が習得できる」(40.1%)、「学力のレベルが自分に合っている」(34.8%)となっている。
- 進学を希望する地域(問13)は、「愛媛県外」(51.0%)が最も多く、次いで「松山市」(24.9%)となっている。
- 愛媛県外で進学を希望する地域(問14)は、「関西地方」(54.6%)が最も多く、次いで「中国地方」(41.3%)となっている。
- 進学して学びたい分野(問15)は、「経済・経営・商学分野」(25.1%)が最も多く、次いで「理学・工学分野」(19.1%)、「医療分野」(18.1%)となっている。
- 就職を希望する地域(問16)は、「出身市町(松山市以外)」(25.5%)が最も多く、次いで「まだ決めていない」(22.8%)となっている。
- 愛媛県外で就職を希望する地域(問17)は、「関東地方」(42.1%)が最も多く、次いで「関西地方」(41.3%)となっている。
- 仕事を選ぶ際に重視すること(問18)は、「収入が多い」(55.8%)が最も多く、次いで「長く安定して働ける」(54.7%)となっている。
- どんなところで働いてみたいか(問19)は、「自分のやりたい仕事ができるのであれば、企業規模は問わない(大企業でも中小企業でもよい)」(61.2%)が最も多く、次いで「できれば大企業や知名度のある企業を優先したい」(25.1%)となっている。
- 将来つきたい職業(問20)は、「分からない、考えていない」(25.4%)が最も多く、次いで「公務員」(23.6%)、「医療関係」(19.0%)となっている。
- 愛媛の企業を何社知っているか(問22)は、「ゼロ」(53.8%)が最も多く、次いで「1～4社」(34.3%)となっている。
- 企業をどのように知ったか(問24)は、「家族」(36.6%)が最も多く、次いで「テレビや新聞」(35.0%)となっている。
- 結婚のイメージ(問25)は、「好きな人と一緒に暮らせる」(71.3%)が最も多く、次いで「子どもが持てる」(42.9%)、「家事や育児が大変」(36.6%)となっている。

- いつまでに結婚したいか(問26)は、「30歳まで」(42.7%)が最も多く、次いで「25歳まで」(27.9%)、「分からない、考えていない」(13.2%)となっている。
- 結婚後の仕事に対する意向(問27)は、「共働きを希望」(66.4%)が最も多く、次いで「わからない」(21.1%)となっている。
- 子どもは何人くらい欲しいか(問28)は、「2人」(59.1%)が最も多く、次いで「分からない、考えていない」(59.1%)となっている。
- 将来の愛媛はどのようにあって欲しいか(問29)は、「豊かな自然環境・景観が守られている」(52.7%)が最も多く、次いで「交通が便利で、どこにでも気軽に出かけられる」(41.0%)、「災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる」(35.3%)、「買い物が便利で、まちに活気がある」(27.0%)となっている。
- もし愛媛県知事になったらどんなことに取り組んでみたいか(問30)は、「公共交通の改善」に関する意見が最も多く、次いで「観光地の整備」「イベントの開催」などの意見が寄せられた。

愛媛県長期計画第3期アクションプログラムの検証に係る 関係団体アンケート調査の概要

1 目的

「新総合計画」の検討に当たり、各分野の関係機関・団体を対象に、これまでの取組みや今後の取組みに向けた所感など県内の幅広い意見の把握を図るため、アンケート調査を実施する。

2 調査の実施概要

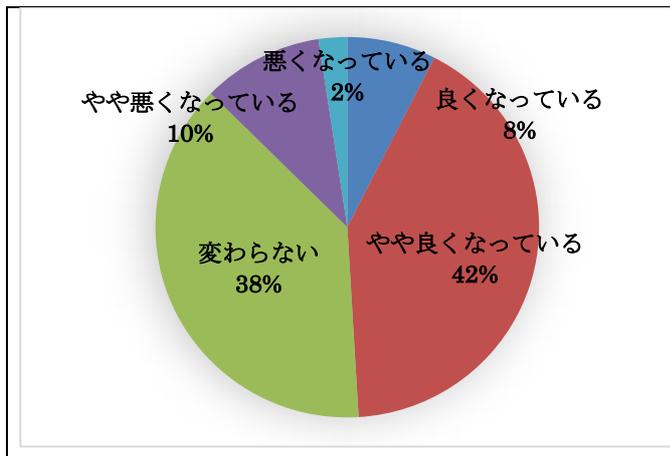
- (1) 調査対象者 現行長期計画に掲げる4分野（産業・暮らし・人づくり・環境）における県内の関係団体等
- (2) 調査方法 インターネットを活用
- (3) 実施期間 9月中旬～下旬
- (4) 回答者数 4つの分野別に、以下のとおり

項目	回答数
〔総回答業者数〕	80
1 産業分野	38
2 暮らし分野	25
3 人づくり分野	16
4 環境分野	10

※複数の分野に回答した業者があるため、総回答業者数と各分野の回答数の合計は一致しない。

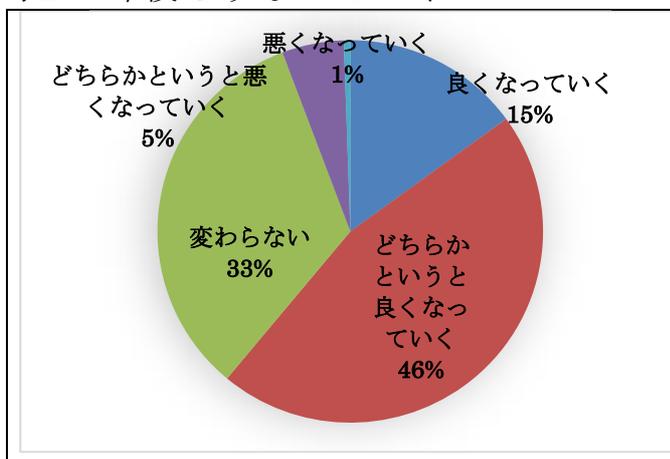
I 産業分野

問1 この3年間の愛媛県の状況について



- 「やや悪くなっている」「悪くなっている」の回答が1割以上あり、特に観光業を中心に、コロナ禍の悪影響に言及する意見が多い。
- 一方で、農業や県内企業のデジタル化が進んでいるとの意見や、ECサイト「愛媛百貨店」、「スゴ〇〇」シリーズのデータベース、県産品の認知度向上といった取り組みを評価する意見があった。
- また、人口減少に伴う人手不足や地域交通における路線廃止等を懸念する意見が多く見受けられた。

問2 今後どうなっていくか



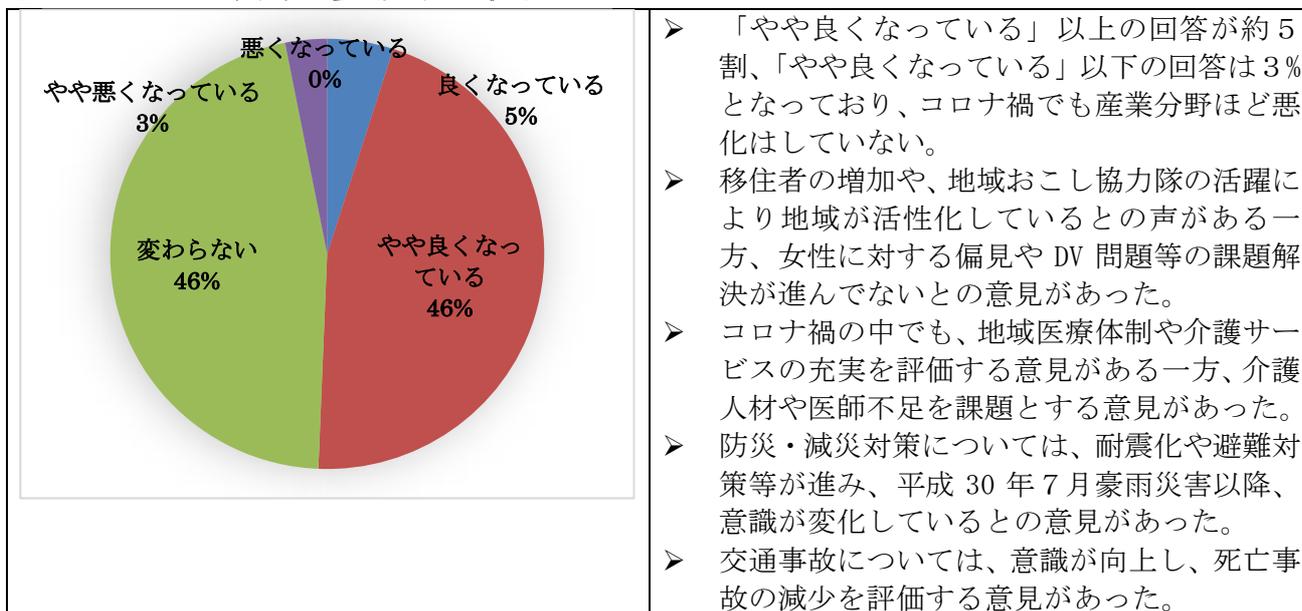
- 「どちらかと言うと良くなっていく」以上の回答が約6割あり、コロナ後の支援、取り組みを望む意見が多い。
- 特にサイクリングやインバウンド需要を期待する声があった。
- 感染症やウクライナ危機等を代表とする社会情勢の不安定化を懸念する意見が多く見受けられた。
- 人手不足については変わらず懸念する声が多い。

問3 今後重視すべき施策

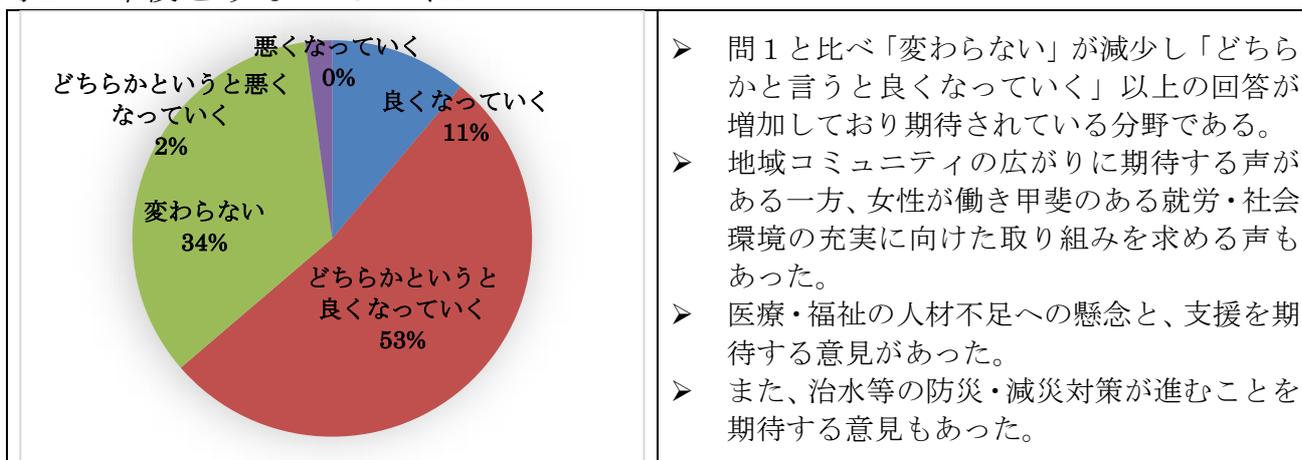
- サテライトオフィスやテレワーカーの誘致の強化、IT企業誘致、DXの推進など、デジタル分野での取り組みの推進を期待する意見があった。
- ひめボス事業所やえひめ仕事と家庭の両立応援企業などの認定・認証制度について、区別が分かりにくいので、なるべく分かりやすく統一し、企業が取り組みやすい制度設計にしてほしいとの意見があった。
- 高齢者、若者、女性の就職支援、職場環境の整備、働き方改革が必要との意見があった。
- 経営課題に応じたさまざまな支援機関（BSO、よろず支援拠点、地域活性化協議会、事業承継・引継ぎ支援センター）の機能（人材）を商工会・商工会議所に盛り込み、促進する仕組みにしてはどうか、との提案があった。
- 海外との取引や、ECサイト等によるマーケティングの強化や、プロモーションの強化等による観光の振興を求める意見があった。
- 農林水産業においては、担い手確保、省力化、生産技術開発等を求める意見が多かった。

II 暮らし分野

問1 この3年間の愛媛県の状況について



問2 今後どうなっていくか

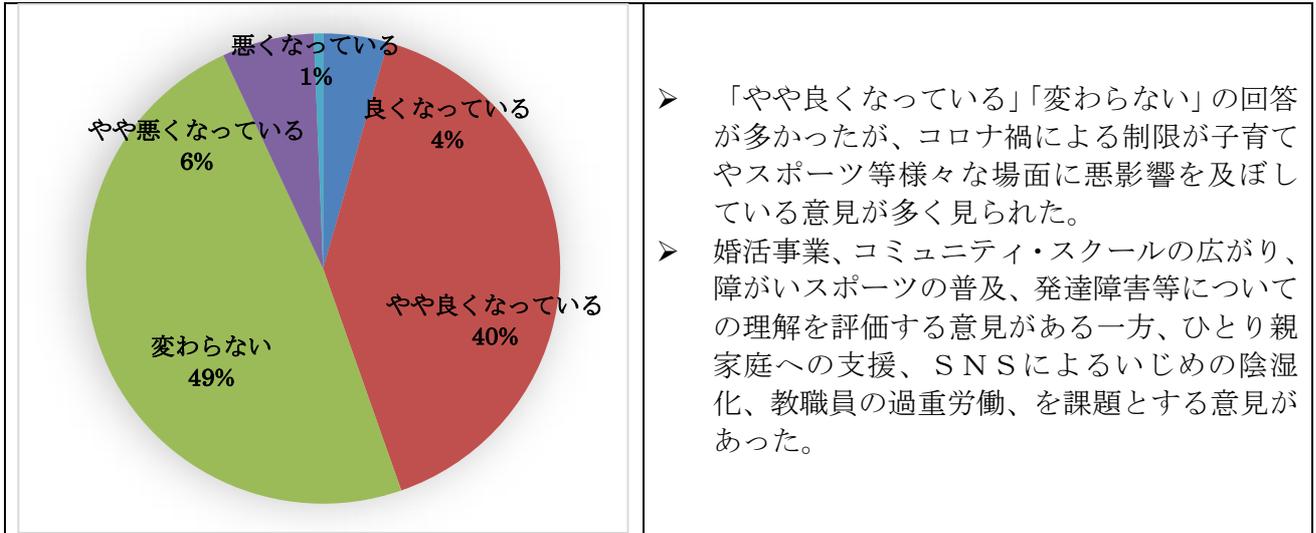


問3 今後重視すべき施策

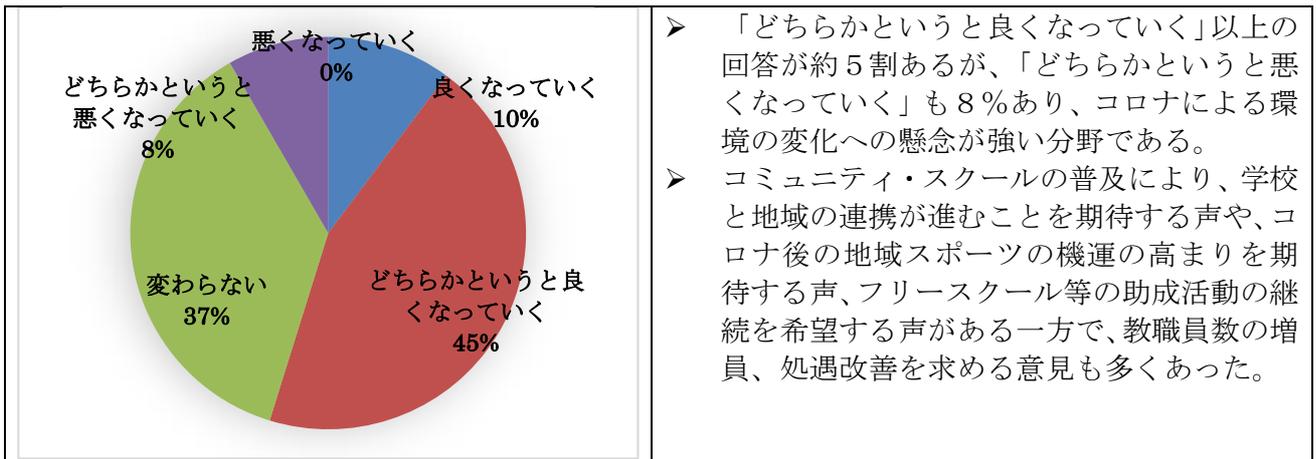
- 若年層（特に若い女性）が愛媛で働きがいを持つことができ、出産・子育て・介護等がキャリアアップの妨げにならない就労・社会環境の実現のための行政・民間連携による総合的な事業や、DV、性暴力対策が重要との声が上がっている。
- また、移住者のために地域や企業の情報発信、地域集落における地域として自立できる産業政策が必要との意見があった。
- このほか、松山圏域の二次救急体制の見直し、高齢者の介護知識の啓発、インフラの耐震化等の防災・減災対策、高校生への自転車教育などが必要との意見があった。

Ⅲ 人づくり分野

問1 この3年間の愛媛県の状況について



問2 今後どうなっていくか

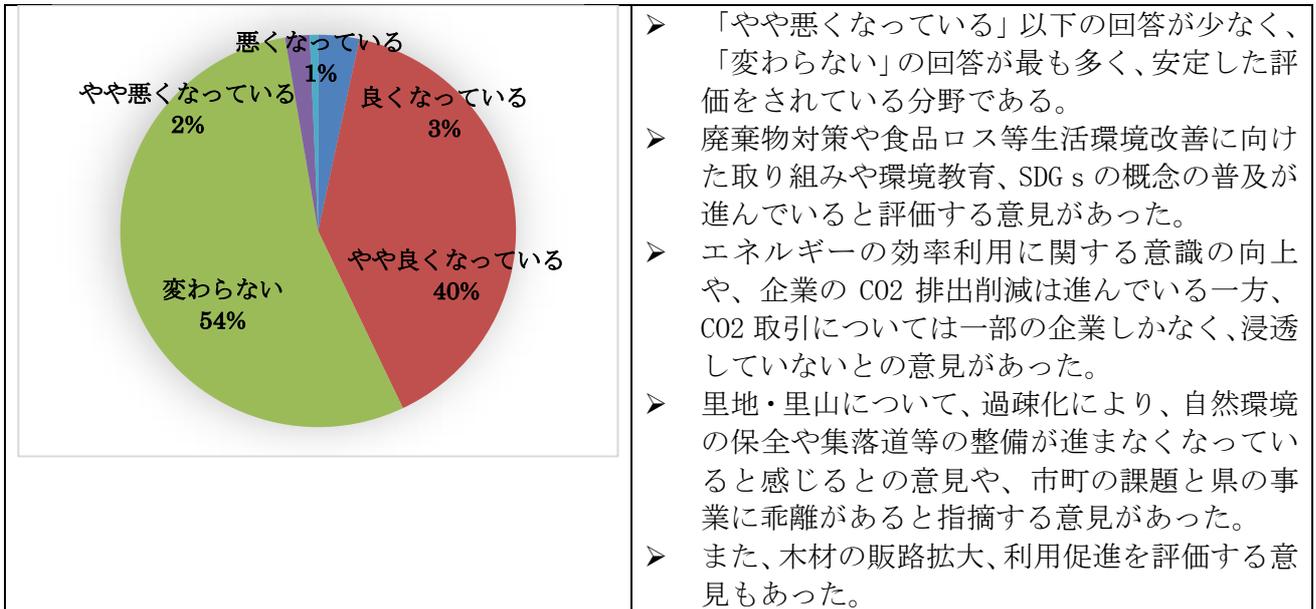


問3 今後重視すべき施策

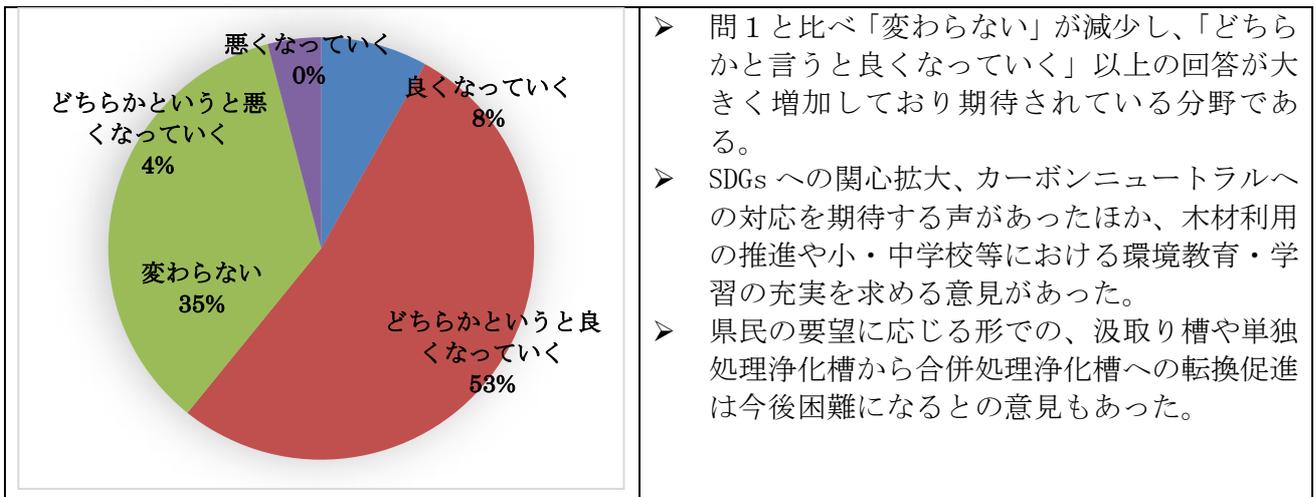
- ▶ ひとり親家庭の交流や支援の強化、生徒への経済的サポート、ICT 環境の整備、習熟度別の授業、障がい児のための学校の環境整備を求める声があったほか、地域のスポーツ団体と連携した教育環境の整備、スポーツ大会の開催支援、総合運動公園への交通アクセスの改善など、スポーツに関する意見も多くあった。
- ▶ また、結婚支援、子育て支援や、男性の参画推進のための企業の意識改革が重要との意見もあった。

IV 環境分野

問1 この3年間の愛媛県の状況について



問2 今後どうなっていくか



問3 今後重視すべき施策

- 子ども達への環境教育の充実のほか、行政や民間における環境教育の専門職員の採用、雇用支援が必要という意見があった。
- 3R に積極的に取り組む優良モデル事業所の PR 事業の充実、小規模事業者の廃棄物に対する育成・指導の充実、海岸漂着物対策の更なる推進、災害廃棄物処理関連施策の充実を求める意見があった。
- 森林整備とそのための担い手確保や、里地、里山を保全する活動を継続するためのリーダーの育成、組織の広域化等の支援が必要との意見があった。